

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第81号

2017年9月18日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. 会報電子化のお知らせ

このたび、オーストラリア学会では会報を電子化することを決定いたしました。ただし、83号などの学会直前号は他の配布物と併せ紙媒体での発行を当分の間継続します。会報電子版は「マイページ」に登録されています電子メール宛てとなりますので、アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

2. 第28回全国研究大会を終えて

第10期代表理事 鎌田真弓

オーストラリア学会(ASAJ)第28回全国研究大会が、6月17日・18日の2日間にわたり成城大学で開催されました。オーストラリア社会や日豪関係の変化を多面的に捉え、オーストラリア研究の新たな方向性を考える研究大会であったと思います。成城大学学長戸部順一先生、およびオーストラリア大使館政務担当参事官マーティン・ウォーカー様にも、開会式でのご挨拶とともに日豪関係の深化についてお話しいただきました。こうした大会を支えてくださった開催校の花井清人理事と水澤祐美子会員、スタッフの皆さん、そして財政面で寛容な助成をいただいた豪日交流基金(AJF)に、心よりお礼申し上げます。

大会では最初に、東京大学客員教授デヴィッド・カーター先生から、大規模な社会調査‘Australian Cultural Fields: National and Transnational Dynamics’の成果の一部として、社会階層と文学作品・作家の嗜好との関連性からオーストラリア社会の様態を分析するという試みが紹介されました。また、本年は日豪通商協定締結60周年および「安全保障協力に関する日豪共同宣言」から10周年を迎え、2つのAJF助成企画では、‘Japan and Australia: What Can We Do for Global Platform?’という共通論題のもとで、日豪関係の進化を日豪の安全保障・経済交流と人材育成の観点から、興味深い報告と活発な議論が行われました。

2日目の午前中に開催された2つの分科会では、オーストラリアの今日的諸相を捉えた8つの斬新な研究報告がありました。個別発表でのフィードバックを取り入れて、さらに完成度の高い論文として学会誌に投稿され、第3回優秀論文賞候補となることを期待しています。第2回優秀論文賞には栗田梨津子会員が選考され、懇親会の会場で授賞式が行われました。また、懇親会には在日オーストラリア大使館よりワインを寄贈いただき、昨年に続いて堤純会員によるオーストラリアワインの紹介が行われました。

第10期理事会は、歴代理事会の熱意ある取り組みを継承し、日本のオーストラリア研究が世界の学術界に貢献し得るような学会活動を運営したいと考えています。会員の皆さまには引き続きご協力をお願い申し上げます。

3. 総会報告

日時: 2017年6月18日(日) 13:15~13:45

場所: 成城大学3号館地下1階003教室

以下の議題が審議され、承認された。

1. 2016年度一般会務報告

- ①2016年度全国研究大会、和歌山大学で開催
- ②学会誌『オーストラリア研究』第30号発行、J-STAGEへの移行手続き終了
- ③「学会報」第78、79、80号発行
- ④ホームページ運営
- ⑤フェイスブック開設

- ⑦地域研究会関連協議会
- ⑧関東・関西例会における助成金
- ⑨FASIC5 参加
- 2. AJF 関連
- 3. オーストラリア学会優秀論文賞
- 4. 2017/2018 年度活動計画
 - ①2017 年度全国研究大会 成城大学で開催
 - ②学会誌『オーストラリア研究』第 31 号発行
 - ③「学会報」第 81、82、83 号発行
 - ④地域研究会
- 5. 2019 年全国大会開催校募集
- 6. 2016 年度決算案・監査報告
- 7. 2017 年度予算案
- 8. 海外学術大会参加助成制度
- 9. 会報の電子化について
- 10. マイページの確認・記載について

以上

4. 第 10 期第 3 回理事会報告

日 時：2017 年 6 月 17 日（土）10：00～12：30（1 回目）

2017 年 6 月 18 日（日）12：00～13：00（2 回目）

場 所：成城大学 3 号館 4 階共用研究室（3401）

出席者：青木麻衣子、藤田智子、濱野健、花井清人、一谷智子、石井由香、鎌田真弓、加藤めぐみ、南出眞助、三宅眞理、長友淳、佐和田敬司、友永雄吾、津田博司、堤純、山内由理子、吉田道代（以上、理事 ABC 順）、白江英司、多田稔（以上、監事）

委任状：1 通

【報告】

1. 加藤理事より、2016 年度編集業務報告があった。
2. 加藤理事より、学会誌掲載論文の J-STAGE への移行手続きが終了したことが報告された。
3. 濱野理事より、2016 年度会報編集業務報告があった。
4. 津田理事より、ホームページ運営に関する 2016 年度業務報告があった。
5. 藤田理事より、フェイスブック運営に関する 2016 年度業務報告があった。
6. 山内理事より、マイページの記入状況について報告があり、マイページへの記載を引き続き会員に呼びかける旨報告があった。
7. 佐和田理事より、2016-17 年度 AJF 助成金関連企画および 2017 年度 AJF 助成金申請に関する報告があった。
8. 鎌田理事より、地域研究会連絡協議会に関する報告があった。
9. 堤理事、津田理事より、2018 年度全国研究大会準備状況に関し報告があった。
10. 佐和田理事より、AJF アンケート調査に関するお知らせがあった。
11. 石井理事より、関西・関東例会における助成金（5000 円）に関しお知らせがあった。
12. 鎌田理事より、FASIC5（在中国オーストラリア研究基金第 5 回国際会議）に、加藤めぐみ会員、藤岡伸明会員、南出眞助会員の参加が承認された旨報告があった。

【議題】

1. 加藤理事より、優秀論文賞の選考結果について説明があった。優秀論文賞は栗田梨津子会員に授与されることが承認された。
2. 2017 年度事業計画に関して、加藤理事（編集）、濱野理事（会報）より報告があり、了承された。
3. 石井理事より、2016 年度決算及び 2017 年度予算案の提案に関し報告があり、了承された。
4. 佐和田理事より、2017-18 年度の AJF 助成金関連の事業計画に関する報告、友永理事より関西例会開催予定に関し報告があり、了承された。

5. 鎌田理事より、ホームページと学会報のスケジュールに関し第4回理事会に向けて検討することが提案され、承認された。
6. 石井理事より、収支改善方法の一つとして学会報の電子化に関し提案があり、承認された。電子化の時期に関してはワーキンググループを作り今後の理事会で相談することが提案され、承認された。
7. 会報の電子化にあたっては、会員への周知徹底、MLのメールアドレスの確認が必要であることが指摘された。石井理事より、マイページのメールアドレス登録と会員MLのメールアドレスの同期化に関して確認することが提案され、了承された。
8. 鎌田理事より、「海外学術大会参加助成制度」に関し提案があり、総会での承認を経て、運営委員会と編集委員会において内規に関して継続審議されることが承認された。
9. 8名の入会と9名の退会が承認された。

以上

5. 優秀論文賞表彰の報告

2015・2016年オーストラリア学会優秀論文賞選考結果報告

オーストラリア学会優秀論文賞選考委員長 鈴木雄雅

2017年4月から5月にかけて、優秀論文賞選考委員会では、選考対象となる論文5本について、第1次審査で6名の選考委員から、それぞれ上位2位までの論文を推薦してもらった後に、上位2位の論文について選考委員長及び副委員長の間で審議の結果、栗田梨津子会員による「新自由主義と先住民性の揺らぎ—アデレード北西部郊外の人種関係の事例から—」を優秀論文賞として推薦するとの結論に至りました。

栗田論文は第1次審査で、3名の選考委員から1位の評価を受けただけでなく、残る3名の委員からも2位に推挙されており、委員会全体から広く高い評価を受けていることが窺われます。栗田論文では特に、現地アデレード北西部郊外における地に着いたフィールドワークを通じて、アデレードにおける先住民の先住性の揺らぎを実証した点が高く評価されました。特に同市での代表的な先住民組織であるアボリジニ・コミュニティ・カレッジでは、親族関係が明らかでない、あるいは肌の色が白い先住民が疎外感を覚えることがある一方で、相互扶助という先住民コミュニティでの特性をよく理解せず、白人的な運営方法に固執するカレッジの先住民ディレクターに対して学生が強い違和感を抱く、といった揺らぎの諸相が指摘されています。さらにポート・アデレードでは貧しさの共有を基盤に先住民と白人など非先住民との間に交流が生まれ、地区の再開発計画に伴いある先住民活動家が土地権運動を展開したとき、地元には親族集団が異なるという理由で先住民住民の一部が運動に理解を示さない一方で、むしろ白人住民が運動に加勢したという、先住性の揺らぎの副産物も指摘されています。こうした先住性の揺らぎの追跡を通じて、栗田氏は文化人類学をバックグラウンドとしつつも、社会学や政治学の守備範囲の 이슈にも検証を施しており、この論文のオリジナリティをいっそう高めています。

本論文に対しては、先住民性の揺らぎをめぐりより深い理論的検討を加えるべき、土地権運動に参加した非先住民の政治的立場をもっと掘り下げ、ポート・アデレードにおける土地権運動の実像をもっと明らかにすべき、といった注文が選考委員の中から寄せられましたが、これらの点は、栗田氏の今後の研鑽に期待することとして、選考結果の報告ならびにお祝いの言葉に代えたいと思います。

受賞の言葉

栗田梨津子

この度は第2回優秀論文賞に選出いただき、大変光栄に存じます。拙論は、2008年よりアデレードで行ってきたフィールドワークの成果を基に、新自由主義の時代における先住民と非先住民の人種間関係について論じたものです。私はこれまで主に、都市先住民による国家とのアイデンティティの交渉をテーマとした研究を行ってきましたが、フィールドワークを進めるうちに、先住民と同様に社会経済的に不利な立場におかれた白人住民の存在を知り、彼らと先住民との関わりについて分析する必要性を感じていました。

そこに、オーストラリア学会第26回全国研究大会にて開催されたシンポジウム「新自由主義時代のオーストラリアにおける差異/境界と社会統合」での発表の機会をいただいたのを機に、このテーマに向き合うことができました。この論文では、新自由主義の下で分断した先住民コミュニティの人々と白人住民が、貧困や差別の経験を媒介として連帯する中で、先住民と非先住民という人種のカテゴリーに還元できない新たな人間関係が立ち現れていることを明らかにしました。このような先住民性の曖昧化と白人性の揺らぎが交差した結果として生じた連帯のあり方に関するケーススタディが、オーストラリア先住民研究、特に先住民との和解に関する研究の進展に少しでも貢献できれば幸いに思います。

これまで研究活動を行うにあたり、オーストラリア学会の皆さまからは多くの有益なご助言や励ましの言葉をいただきました。大学院生時代、初めて学会発表を行った場がオーストラリア学会関西地区例会ということもあり、オーストラリア学会との出会いがなければ、本研究は実現し得なかったと思っております。これまで様々な形でご指導いただいた先生方、査読や選考に携わっていただいた先生方をはじめ、本論文の執筆に協力いただいた全ての方々に、この場を借りてお礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後より一層精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

6. オーストラリア学会財務諸表 2016年度決算

貸借対照表

平成29年3月31日現在 単位：円

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0	0	0
普通預金	4,226,741	2,623,129	1,603,612
郵便振替口座	539,282	1,701,818	△ 1,165,536
前払金	5,000	0	5,000
流動資産合計	4,768,023	4,324,947	443,076
資産合計	4,768,023	4,324,947	443,076
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	1,000	40,000	△ 39,000
未払金	0	322,033	△ 322,033
流動負債合計	1,000	362,033	△ 361,033
負債の部合計	1,000	362,033	△ 361,033
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産	4,767,023	3,962,914	804,109
正味財産合計	4,767,023	3,962,914	804,109
負債及び正味財産合計	4,768,023	4,324,947	443,076

正味財産増減計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
単位：円

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	384	1,001	△ 617
②受取会費	1,504,000	1,469,000	35,000
③雑誌販売収益	8,328	10,488	△ 2,160
④大会補助残金	54,028	171,974	△ 117,946
⑤特別会計からの繰入	415,460	0	415,460
⑥受取補助等	67,100	0	67,100
⑦その他	123,750	17,000	106,750
経常収益計	2,173,050	1,669,463	503,587
(2) 経常費用			
①事業費			
大会及び研究会旅費補償	105,000	100,000	5,000
特別会計繰出金	0	0	0
国際会議派遣事業費+			
学会賞事業特別会計積立金	0	150,000	△ 150,000
国際学会派遣費用	154,888	0	154,888
事業費計	259,888	250,000	9,888
②管理費			
印刷費	360,200	325,624	34,576
会議費	46,220	35,820	10,400
消耗品費	19,548	38,880	△ 19,332
通信費	116,539	112,078	4,461
謝金	10,000	0	10,000
業務委託費	556,566	852,872	△ 296,306
雑費	0	0	0
管理費計	1,109,073	1,365,274	△ 256,201
経常費用計	1,368,941	1,615,274	△ 246,333
当期経常増減額	804,109	54,189	749,920
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	804,109	54,189	749,920
一般正味財産期首残高	3,962,914	3,908,725	54,189
一般正味財産期末残高	4,767,023	3,962,914	804,109
II. 正味財産期末残高	4,767,023	3,962,914	804,109

収支決算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
単位：円

科目	予算額	決算額	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	384	616
②受取会費	1,470,000	1,504,000	△ 34,000
③雑誌販売収入	10,000	8,328	1,672
④大会補助残金	0	54,028	△ 54,028
⑤特別会計からの繰入	415,460	415,460	0
⑥受取補助等	0	67,100	△ 67,100
⑦その他	14,000	123,750	△ 109,750
経常収益計	1,910,460	2,173,050	△ 262,590
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補償	100,000	105,000	△ 5,000
特別会計繰出金	150,000	0	150,000
国際会議派遣事業費+			
学会賞事業特別会計積立金	0	0	0
国際学会派遣費用	300,000	154,888	145,112
事業支出計	550,000	259,888	290,112
②管理費			
印刷費	330,000	360,200	△ 30,200
会議費	50,000	46,220	3,780
消耗品費	40,000	19,548	20,452
通信費	110,000	116,539	△ 6,539
謝金	10,000	10,000	0
業務委託費	550,000	556,566	△ 6,566
学会賞商品購入費	0	0	0
雑費	10,000	0	10,000
管理支出計	1,100,000	1,109,073	△ 9,073
事業活動支出計	1,650,000	1,368,941	281,059
事業活動収支差額	260,460	804,109	△ 543,649
II. 投資活動収支の部			
III. 財務活動収支の部			
IV. 予備費支出の部			
当期収支差額	260,460	804,109	△ 543,649
前期繰越収支差額	3,962,914	3,962,914	0
次期繰越収支差額	4,223,374	4,767,023	△ 543,649

特別会計

国際学会派遣事業費・学会賞事業特別会計

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
単位：円

収入			
前期繰越金	415,460		
一般会計繰入金	0		415,460
支出			
学会賞賞品・賞状等費用	0		
会員国際学会派遣費用	0		
一般会計繰出金	415,460		415,460
収支差額			0

財産目録（総括表）

平成29年3月31日現在

単位：円

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	手元保管		0
	普通預金	運転資金として	4,226,741
	ゆうちょ銀行口座		4,226,741
	郵便振替口座	運転資金として	536,282
	郵便振替口座		536,282
前払金	2017・2018年度分税金	地域研究学会連絡協議会	5,000
流動資産合計			4,768,023
固定資産			4,768,023
(流動負債)			
前受会費収入		理事業年度会費	1,000
流動負債合計			1,000
固定負債			1,000
正味財産			4,767,023

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をないものとみなした。

監査報告書

財務諸表及び注記を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。

平成29年 月 日

㊦

㊦

2017年度予算案

オーストラリア学会2017年度収支予算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

単位：円

科目	予算額	前年度予算額	差額
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	1,000	0
②受取会費・入会金	1,500,000	1,470,000	30,000
③雑訪販売収入	10,000	10,000	0
④特別会計からの繰入	0	415,460	△ 415,460
⑤その他	14,000	14,000	0
経常収益計	1,525,000	1,910,460	△ 385,460
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	120,000	100,000	20,000
特別会計繰出金	0	150,000	△ 150,000
国際学会派遣事業費用*	200,000	300,000	△ 100,000
事業支出計	320,000	550,000	△ 230,000
②管理費			
印刷費	360,000	330,000	30,000
会費	50,000	50,000	0
消耗品費	20,000	40,000	△ 20,000
通信費	110,000	110,000	0
謝金	10,000	10,000	0
業務委託費	570,000	550,000	20,000
学会賞賞品購入費	30,000	0	30,000
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,160,000	1,100,000	60,000
事業活動支出計	1,480,000	1,650,000	△ 170,000
事業活動収支差額	45,000	260,460	△ 215,460
II. 投資活動収支の部			
III. 財務活動収支の部			
IV. 予備費支出の部			
当期収支差額	45,000	260,460	△ 215,460
前期繰越収支差額	4,767,023	3,862,914	804,109
次期繰越収支差額	4,812,023	4,223,374	588,649

*オーストラリア学会代表者国際大会参加費用助成支出ルール（2015年11月29日理事会承認）により、助成総額は年間最大30万円と定められている。

全国研究大会 個別報告者募集

オーストラリア学会2018年度総会・全国研究大会は、6月9日（土）・10日（日）の両日に、筑波大学（筑波キャンパス）で開催される予定です。（詳細は会報次号[2月発行予定]でお知らせいたします。）
個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、11月末日までに、学会事務局あて書面（メール可）にてお申し込みください（200字程度の要旨を添付してください）。

7. 海外学術大会参加助成制度の設立について

「海外学術大会参加助成制度」の設立が総会において承認され、本年度助成金予算 20 万円が認められました。本制度は、海外の学術大会での発表を通して、オーストラリア研究に関わる海外研究者と本学会の学術交流を進め、かつ本学会の若手研究者を育成することを目的としています。助成制度の細則は本学会 HP に掲載いたします。助成をご希望の会員は、細則をご確認の上、学会事務局にご連絡ください（国際文献社：asaj-post@bunken.co.jp）。事務局より申請書をお送りいたします。

8. オーストラリア学会 第 24 回地域研究会（関西例会）報告

第 24 回の地域研究会（関西例会）は 3 月 25 日に関西学院大学上ヶ原キャンパスにて開催された。参加者は報告者を含む研究者に加え、関西日豪協会、大阪日豪協会の会員、さらに龍谷大学の学部生含め計 13 名であった。第 1 報告者である長友淳氏（関西学院大学）の報告では、在豪日本人社会からニッケイ社会への歴史的な転換期について、とりわけ誰がニッケイに包摂・排除されるかが考察され、またそれに対する一定の理論的枠組みが提示された。第 2 報告者のジャレッド・デンマン氏（福井県立大学）は、クィーンズランド州南東部に 1980 年代から 90 年代にかけて移住した家族のナラティブに注目し、従来の在豪日本人に対するライフスタイル移民の研究を批判的に乗り越えようとした。これらの発表終了後は研究者だけでなく、日豪協会の会員からも個人的な経験に基づく質問があり、活発な意見交換がなされた。

9. オーストラリア学会 第 12 回地域研究会（関東例会）のお知らせ

※会員以外の方も参加できます。入場無料。

日 時：2017 年 10 月 21 日（土）15:00～18:00

会 場：慶應義塾大学・三田キャンパス（教室未定：オーストラリア学会ウェブサイトおよび Facebook 上で告知します。）

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

交 通：JR 田町駅から徒歩 8 分、都営地下鉄浅草線／三田線三田駅から徒歩 7 分

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

連絡先：藤田智子 mh040484@hotmail.com

報告者：慶應義塾大学名誉教授 関根政美

題 目：「トランプ・ハンソン時代の多文化社会オーストラリアの政治」

要 旨：アメリカ第一主義や移民の制限を掲げ 2016 年の大統領選挙に勝利したドナルド・トランプの政権発足から半年以上が経過した。ヨーロッパでも極右政党の動きが活発化し、フランスでは自国第一主義や移民排斥を訴えた国民戦線党首マリヌ・ルペンが 2017 年大統領選で躍進した。一方、オーストラリアでも 2016 年総選挙でイスラム教徒排斥などを訴えたポーリン・ハンソン率いるワン・ネーション党が上院で議席を獲得し、復活を果たした。移民や難民の問題を背景にポピュリズムが先進国を席卷するなか、多文化主義はどうなるのか。本研究会では、報告者に慶應義塾大学名誉教授の関根政美会員を迎え、ポピュリズム時代の多文化主義と多文化主義をめぐる政治について報告いただく。

10. オーストラリア学会 第 25 回地域研究会（関西例会）のお知らせ

*会員以外の方も参加できます。入場無料。

日時：2017 年 10 月 14 日（土）13：00-16：30

会場：龍谷大学 キャンパスプラザ京都（6階 第7講習室）

交通：龍谷大学キャンパスプラザ京都へは JR 京都駅から徒歩 5 分です。

◎講演は日本語・英語で行います。

連絡先：龍谷大学国際学部 友永雄吾 tomou5@world.ryukoku.ac.jp

共催：龍谷大学国際社会文化研究所、科研基盤研究(S)（研究課題番号 16K03246）

協力：豪日交流基金

報告者 1：Professor Martin Nakata (Head of the Australian Aboriginal and Torres Strait Islander Centre at James Cook University)

Title: Anger intervention model.

Abstract: Prof Nakata will share research work he and his colleagues undertook to investigate Indigenous Australian men's understandings and expressions of anger, and the design of an intervention model for Indigenous men.

報告者2：山田美智子（ニュージーランド Donaldson Trust コミュニティサポートワーカー、The Chris Ruth Centre Trust 職業支援員）

題目：「ニュージーランドのマオリの飲酒、ドラッグアディクト問題とその支援について」

要旨：元来、ニュージーランド先住民であるマオリに飲酒、喫煙、薬物摂取の習慣はなかったが、西洋人の入植後、次第にマオリの間にも拡がり、現在では16歳から64歳までのマオリの64.7%が日常的または時折、大麻やパーティーピルをはじめとした薬物使用の経験があり、また、タバコ、アルコール摂取量もマオリ以外の民族と比べ高くなっている。これらの経緯、背景と取り組まれている支援、今後の課題について報告したい。

11. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2017年5月に年会費を納入しても、2016年度未払いの場合、それは2016年度の会費となります。すなわち、2017年度は未納ということになります。また2015、2016年度未払いの場合、2015年度分の会費納入になります。

＜2016年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ＞

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2016年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当あてまでお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2017年3月発行、第30号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

12. マイページ登録のお願い

オーストラリア学会会員 各位

第10期理事会では、会員間の連絡をとるために、紙媒体の会員名簿の代替情報として「マイページ」を活用していくことにいたしました。先日MLでもこの件はお知らせし、会員の方にはマイページの内容確認をお願いいたしました。確認していただいた会員の方には、あらためて感謝を申し上げます。

2017年6月12日現在、マイページでの内容記入状況は下記のとおりです。

氏名のみ 4名

氏名と勤務先 117名

氏名と勤務先と研究領域 63名

氏名と研究領域 12名

合計 196名

会員間の交流の活性化のためにも、研究領域に関する情報は必須とされます。お忙しい折に恐縮ですが、まだ「マイページ」のご確認・ご記入がお済みでない会員は、ご確認の上、ご記入をいただけますようお願いいたします。また、一部の会員には、会員メールが届いていないという意見が寄せられています。念のため、マイページにおいて登録されている最新のメールアドレスの確認をお願いいたします。

13. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿を希望する会員は、早めに編集担当理事・加藤 (kato@sw.meisei-u.ac.jp) にご連絡ください。投稿に関する詳細は、学会ウェブサイト、「投稿要領」(2017年5月1日一部改訂)をご参照ください。

次の第31号の投稿は2017年8月31日で締め切りました。31・32号に掲載された論文は「第3回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となりますので、引き続き奮って投稿してください

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2017年10月30日です。編集作業の都合上、電子メールをご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先: 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当
TEL: 03-5937-0249, FAX: 03-3368-2822, Email: asaj-post@bunken.co.jp

14. 新刊書のご案内

佐和田敬司『オーストラリア先住民とパフォーマンス』東京大学出版会 (2017年7月刊行/A5判/280ページ/7800円+税)

「アボリジニに演技は出来ない」——長らくこう語られてきたが、社会的・文化的抑圧を生き抜いた人びとが、自らのパフォーマンスを通じて表現するものは何なのか。「観る・観られる」視点を越えて、先住民、非先住民、世界の観客を見据えた新たな創造を克明に描き出す。

【諸届出/連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当
TEL : 03-5937-0249 FAX : 03-3368-2822 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学経済学部 花井清人研究室気付
TEL 03-3482-9403 E-mail: khanai@seiyo.ac.jp
会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当: 濱野健 (北九州市立大学) / 編集協力: 藤岡伸明 (静岡大学)]